ウ　造形
エ　色彩と色彩計画
(2) テキスタイルデザインの技法
ア　テキスタイルデザイン
イ　描法
ウ　パターンデザイン
(3) デザインの具体化
ア　織物デザイン
イ　ニットデザイン
ウ　染色デザイン
エ　コンピュータデザイン
(4) 装飾様式と室内装飾
ア　装飾様式と文様
イ　服飾様式
ウ　室内装飾

3　内容の取扱い

(1) 内容を取り扱う際には，次の事項に配慮するものとする。
ア　メディア教材の活用などを通して，具体的に理解できるよう工夫して指導すること。また，生徒や地域の実態，学科の特色等に応じて，適切な題材を選定して扱うことができること。
(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。
ア　〔指導項目〕の(1)については，作品制作を通して，具体的にテキスタイルとデザインとの関係を扱うこと。
イ　〔指導項目〕の(3)については，デザインを具体化する技法を扱うこと。また，コンピュータを活用したテキスタイルデザインの作品を制作すること。
ウ　〔指導項目〕の(4)のアについては，日本の伝統的な装飾様式と文様を扱うこと。イについては，服飾デザイン画を制作させること。ウについては，室内装飾としてのテキスタイルを扱うこと。

第54　インテリア計画

1　目　標

工業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，インテリアの計画に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) インテリア計画について住生活や工業生産を踏まえて理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
(2) インテリア計画に関する課題を発見し，技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
(3) インテリアを計画する力の向上を目指して自ら学び，インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2　内　容

1に示す資質・能力を身に付けることができるよう，次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

(1) インテリア計画の概要
(2) インテリアの造形と心理
ア　人間の感覚と造形の知覚
イ　形態，色彩，テクスチャー
ウ　空間認知と空間行動
(3) インテリアの環境
ア　屋外環境
イ　屋内環境
(4) インテリアと人間工学
ア　人体と人体寸法
イ　姿勢と動作
ウ　家具と設備の機能寸法
エ　インテリアと住空間
(5) 規模計画と寸法計画
ア　規模計画
イ　寸法計画
ウ　モデュラーコーディネーションとグリッドプランニング
エ　配置と動線
(6) インテリアエレメント
ア　インテリアエレメントの分類
イ　インテリアエレメントの計画
(7) 各種空間の計画
ア　住宅
イ　事務所
ウ　公共施設